



平成30年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年8月13日

上場会社名 株式会社和心 上場取引所 東
 コード番号 9271 URL https://www.wagokoro.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 森 智宏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 宮原 優 TEL 03-5780-0556
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成30年12月期第2四半期の業績（平成30年1月1日～平成30年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第2四半期	1,267	—	47	—	32	—	19	—
29年12月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第2四半期	7.53	7.34
29年12月期第2四半期	—	—

（注）1 平成29年12月期第2四半期は四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期実績につきましては記載しておりません。

2 当社株式は、平成30年3月29日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しており、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新規上場日から当第2四半期累計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第2四半期	1,838	1,157	63.0
29年12月期	1,242	589	47.5

（参考）自己資本 30年12月期第2四半期 1,157百万円 29年12月期 589百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年12月期	—	0.00	—	—	—
30年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年12月期の業績予想（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,841	14.1	100	△58.5	84	△65.7	40	△81.1	14.78

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

当社は、平成30年4月25日を払込期日とする、オーバーアロットメントによる売出しに関連する第三者割当有償増資を行い、普通株式60,600株を発行しております。このため、平成30年12月期の1株当たり当期純利益については、発行後の株式数で算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年12月期2Q	2,816,300株	29年12月期	2,465,700株
② 期末自己株式数	30年12月期2Q	－株	29年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年12月期2Q	2,640,342株	29年12月期2Q	－株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。なお、当社は、前第2四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢や企業収益の改善を背景に、緩やかな景気回復基調にあり、個人消費にも一部持ち直しの動きは見られたものの、消費者の節約志向は根強く、海外経済の不確実性もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社を取り巻く経営環境においては、底堅い日本人国内旅行消費に加えて、訪日外国人観光客数は平成30年1月～3月期において前年同期比16.5%増の推計762万人、同旅行消費は同期間で初めて1兆円を超過し過去最高を更新するなど堅調な推移を見せておりましたが、6月18日に発生した大阪府北部地震、また6月28日以降の西日本における豪雨によって、当社店舗が最も多く立地する京都エリアを中心に来店客数が急減速するなどの影響を受ける結果となりました。

このような経済環境の下、当社は「日本のカルチャーを世界へ」を経営理念に、「日本文化を感じるモノを作り販売する」モノ事業と「日本文化の良さを体験してもらう」コト事業の2つの事業の強化に引き続き取り組みました。

その結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高1,267,889千円、営業利益47,830千円、経常利益は32,921千円、四半期純利益は19,876千円となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

(モノ事業)

モノ事業においては、当第2四半期累計期間に〔かんざし屋wargo〕、〔箸や万作〕、〔北斎グラフィック〕の業態についてそれぞれ新規出店を行いました。そのうち2店舗は成田国際空港内への出店で、当社では初となる空港内への出店となりました。また平成30年4月20日には新業態となる器専門店〔万作ギャラリー〕を京都新京極に出店いたしました。当第2四半期累計期間の出店は12店舗、一方同期間の閉店が1店舗あり、当第2四半期末の店舗数は55店舗となりました。

OEMにおいては、既存顧客からの受注に加え、新規顧客の開拓を積極的に行いました。また、当社運営のECサイトにおける当社ブランド及びゲームやアニメのほかキャラクターとコラボした製品の販売が順調に推移しました。

その結果、モノ事業の売上高は888,225千円、セグメント利益は149,367千円となりました。

(コト事業)

コト事業においては、冠婚葬祭中心の着物レンタル店の店舗開発の遅れの影響から、当第2四半期累計期間の出店は2店舗に留まり、当第2四半期末の店舗数は13店舗となりました。

その結果、コト事業の売上高は379,663千円、セグメント利益は87,858千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて504,270千円増加し1,340,685千円となりました。これは現金及び預金が443,841千円、商品が45,198千円増加したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて90,120千円増加し495,462千円となりました。これは新店舗に係る敷金が49,628千円増加したことなどによります。

繰延資産は、前事業年度末に比べて1,772千円増加し2,653千円となりました。

その結果、資産合計は、前事業年度末に比べて596,163千円増加し1,838,800千円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて51,187千円減少し415,650千円となりました。これは買掛金が36,553千円増加したものの、未払法人税等が67,455千円減少したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて79,206千円増加し265,345千円となりました。これは長期借入金が79,515千円増加したことなどによります。

その結果、負債合計は、前事業年度末に比べて28,019千円増加し680,996千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べて568,143千円増加し1,157,804千円となりました。これは増資により資本金及び資本剰余金が274,169千円ずつ増加したこと、四半期純利益19,876千円により利益剰余金が増加したことなどによります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、平成30年3月29日に公表しました平成30年12月期通期の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日平成30年8月13日に公表いたしました「平成30年12月期第2四半期（累計）業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	359,185	803,027
売掛金	134,909	152,592
商品	254,316	299,514
その他	88,002	85,550
流動資産合計	836,414	1,340,685
固定資産		
有形固定資産	158,742	185,831
無形固定資産	72,892	79,971
投資その他の資産		
敷金	141,877	191,506
その他	31,828	38,153
投資その他の資産	173,706	229,659
固定資産合計	405,341	495,462
繰延資産	881	2,653
資産合計	1,242,637	1,838,800
負債の部		
流動負債		
買掛金	50,100	86,654
1年内返済予定の長期借入金	108,441	117,371
未払法人税等	89,283	21,827
賞与引当金	10,095	6,574
その他	208,917	183,223
流動負債合計	466,838	415,650
固定負債		
長期借入金	184,517	264,032
その他	1,621	1,313
固定負債合計	186,138	265,345
負債合計	652,977	680,996
純資産の部		
株主資本		
資本金	164,850	439,019
資本剰余金	136,320	410,489
利益剰余金	288,605	308,481
株主資本合計	589,775	1,157,989
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△114	△185
評価・換算差額等合計	△114	△185
純資産合計	589,660	1,157,804
負債純資産合計	1,242,637	1,838,800

(2) 四半期損益計算書

(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
売上高	1,267,889
売上原価	235,720
売上総利益	1,032,169
販売費及び一般管理費	984,339
営業利益	47,830
営業外収益	
受取利息	2
その他	714
営業外収益合計	717
営業外費用	
支払利息	604
株式公開費用	13,699
その他	1,322
営業外費用合計	15,626
経常利益	32,921
特別損失	
固定資産除却損	337
特別損失合計	337
税引前四半期純利益	32,584
法人税等	12,708
四半期純利益	19,876

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間(自平成30年1月1日至平成30年6月30日)

株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成30年3月29日付で東京証券取引所マザーズ市場に上場し、平成30年3月28日を払込期日とする有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)による増資により、発行済株式総数が290,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ226,780千円増加しております。

また、平成30年4月25日を払込期日とする有償第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)により、発行済株式総数が60,600株、資本金及び資本準備金がそれぞれ47,389千円増加しております。

これらの結果、当第2四半期会計期間末において、資本金は439,019千円、資本剰余金は410,489千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

従来、当社の税金費用については、原則的な方法により計算しておりましたが、当社の四半期決算業務の一層の効率化を図るため、当第1四半期会計期間より事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益計算 書計上額(注2)
	モノ事業	コト事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	888,225	379,663	1,267,889	1,267,889	—	1,267,889
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	888,225	379,663	1,267,889	1,267,889	—	1,267,889
セグメント利益	149,367	87,858	237,226	237,226	△189,395	47,830

(注) 1. 調整額△189,395千円は、本社管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。